

未来



全労協・郵政産業労働者
ユニオン長崎中野支部
機関紙・「みらい」
NO. 3854
18年5月15日(火)
・Fax 095-828-1953

二つの5・15を いま歴史検証

おはようございます。

今日は、先の戦争の始まりともなった五・一五テロ事件「一九三二(昭和七)年の今日、軍と右翼が、犬養首相らを射殺した日本史上初のクーデターの日である。

日本はこれを契機に、政党政治と民主化「大正デモクラシー」が崩壊し、二つに軍部の政治支配の時代となり、泥沼の十五年戦争へとはいれる。

仲間と競争せず、弱い立場の人と共に団結して闘おう。



ではなぜ、軍事クーデターが起きたのか。一番は経済で

が、国際連盟はこれを認めな

ある。一九一九に起きた世界大恐慌(ブラック・マンデー)で、日本も昭和恐慌となり、国民の生活は非常に苦しくなる。東北では飢餓状態が四十五万人となり、米抜きの日一食の食事だった、と当時の岩手県知事が報告している。

この混乱を背景に、右翼と軍部は昭和維新を唱える。政界と経済界の腐敗の一掃と称して、一人一殺のテロ事件を続発させる。

この事件の直前の三月、彼らはこのロンドン軍縮会議で日本の譲歩を批判し、政友会の井上幹事長を射殺し、さらに経済界のトップであった三井理事長の団琢磨も暗殺する(血盟団事件)。

また同日、日本は満州国の設立宣言を行う

また同日、日本は満州国の設立宣言を行う

い。日本はこれを不服として翌年の三月、国際連盟を脱退する。また七月にはドイツでは、ヒトラーのナチス党が政権を握り、のちの日独伊の三国同盟へと運動する。このように一九三二年前後は日本史の中でも、大きな転換点となる年であった。



この満州国設立の背景には、軍部の挑発的な上海事件がある。この年の一月に、関東軍の板垣参謀が「満州を独立させるために、上海で事件をおこし、列国の目を満州からそらすしてほしい」との依頼をし、上海公使館の武官の田中少佐が、配下に上海の日本人を襲わせ、この襲撃をきっかけに日本軍と中国は、本格的な戦争へとはいった事件である、日本の歴史「小学館から」。

こうした軍部の挑発による軍事衝突は、その前年の満州事変のきつかけとなった柳条湖の満州鉄道爆破事件も同様である。これも中国大陸で戦争をもくろむ関東軍の自作自演の破壊工作であったと、日本国民は戦後に初めて知ることとなる。これからみても、歴史の検証はいつの時代も必要で、正しく書かれなければならない。

第二の五・一五 沖縄

そして日本はこの中国の戦争から対アメリカ「世界との戦争へと突入し、一九四五年昭和二〇(年)年に敗戦し、それから七年間、日本は連合国軍の支配の統治下となる。そして一九五二(昭和二六)年のサンフランシスコ平和条約の締結で、被支配の統治を脱し、国際社会へ復帰する。

しかしそのとき沖縄は日本へ返還されず、米軍の支配が続く、その後、沖縄は一九七二(昭和四七)年の五月十五日の施政権返還(沖縄県の発足)まで待たなければならなかった。これが二つ目の五・一五である。

それから四十六年がたったが、沖縄には在日米軍の基地の七割が集中し、犠牲と負担は沖縄県民に偏在している。これは日米両政府が、沖縄県民の平和と安全よりも、国の意思を優先し、沖縄県民の声を無視しているからだ。ここには主権在民の思想はない。

一九九六年、普天間基地の移転が日米で合意されるが、いまなお普天間基地は残り、危険な状態が続いている。そもそも九六年の普天間基

地移転合意はなぜ出てきたのか。それは、九五年に起きた米兵による少女暴行事件を契機に、国民の反基地の怒りが爆発し、九六年九月に行われた沖縄の県民投票で、米軍基地縮小と地位協定の見直しの賛成が八九%という県民の強い意志と、基地反対のたたかいがあつたからである。

そして現在、平和大行進が行われている沖縄の五・一五(いま)を考える。

日米両政府は、普天間基地の移転先は辺野古であるとして、地元住民の反対の声を無視し、反対する人々を、機動隊の暴力で押しつぶそうとしている。これは絶対に許されない。

アメリカのトランプ大統領は、自国の立場に従わない国には、軍事的な圧力を加え、中東ではまさに戦争だ。安倍首相もトランプを支持して、沖縄の米軍支配の現実を認めている。国の首相が国民の意思を無視し、アメリカを向いている。これは間違っている。



最後に歴史の流れを一つ。安倍政権のNO二の麻生財務大臣の岳父は吉田茂首相で、

戦後に日米安保条約とサンフランシスコ平和条約を結んだその吉田の岳父は牧野伸顕であり、明治維新の元君とされる大久保利通の二男である。この牧野は五・一五事件のとき犬養内閣の内務大臣で政権のNO二だったが、運よく襲撃を逃れた。

また、安倍首相の父(晋太郎)は元外務大臣だ。またその父は一九六〇年の日米安保条約を強行した岸信介首相であり、岸は戦前に商工大臣として満州国のNO二の高官であり、A級戦犯となる。岸は安倍首相の祖父であり、またその岸の弟(安倍の叔父)の佐藤栄作は、一九七二年の沖縄返還のときの首相である。



こうした先の戦争や、沖縄の核と基地つきの二七返還で県民を苦しめる政治は、明治以降四代にわたり、日本の政治を握る一部の人たち「一族」によって強行されている。これが歴史の真相だ。たまさかではならない。

期間雇用パート労働者の皆さん! 困りごとは職場の郵政ユニオンへご相談を。

1集-山本, 2集-向井, 3集-山田, 郵便-高田, ゆうちょ銀-上筋, 他支部・分会の役員へ。

期間雇用社員の希望者全員の正社員化を。めざせ、均等待遇、なくそう差別! ユニオンは労働法裁判に勝利するぞ!